

戦後（1945～1950） その 1 1

《新幹線、着工へ》

戦前、弾丸列車計画が着工されますが、戦争で中断したままでした。（注 1）そこに、1954 年（昭和 29）以降、欧米からの新技術移入や国内メーカーの技術開発に伴い、私鉄が高性能の電車を走らせ成功を収めると、一気に国鉄（現 JR グループ、注 2）も動きます。

1955 年（昭和 30）、国鉄は、戦前の弾丸列車実現に取り組んだ十河信二（注 3）を総裁に据え、そのときの技術者だった島秀雄（注 4）を国鉄技師長として迎え、大規模高速輸送鉄道路線（新幹線）を実現すべく、活動を開始したのです。

一方、小田急電鉄は、鉄道技術研究所（現鉄道総合研究所、注 5）の技術指導を受けて特急電車を開発します。この電車が、1957 年（昭和 32）9 月、国鉄の路線で、当時の世界速度記録を達成します。（注 6）

この実績を踏まえて、国鉄は、1958 年（昭和 33）、東海道本線特急「こだま号」用に新型電車を開発し、翌 1959 年（昭和 34）に最高時速 163 km を記録し、小田急特急電車の速度記録を更新しました。

こうした技術開発の成果に裏づけされ、1958 年（昭和 33）建設計画が承認され、翌 1959 年（昭和 34）4 月 20 日起工式（注 7）が行なわれるに到ります。そして、オリンピックの東京開催が通知された 1961 年（昭和 36）、世界銀行からの融資が決定。

翌 1962 年（昭和 37）には、神奈川県綾瀬付近から小田原付近の区間がモデル線として先行整備され、高速列車の走行試験が行われました。その際の基地が現在の JR 東海の鴨宮保守基地です。そこに「新幹線の発祥地・鴨宮」の碑が建立されています。

注1：1940年（昭和15）9月、鉄道省が「東京・下関間新幹線建設基準」を制定し、同年に帝国議会で「広軌幹線鉄道計画」が承認され、国家が1954年（昭和29）までに開通させることを目標とした「十五ヶ年計画」に基づいて建設を行うことが決定。これに基づき、用地買収・工事が開始されていきましたが、戦局が悪化したため、1943年（昭和18）度をもって工事は中断されます。

このときまでに、新丹那トンネル・東山トンネルの工事は進んでおり、用地買収も東海道区間については戦時体制による半ば強制的な形で多くが完了していました。神奈川県下の新幹線モデル線は、用地がすでに確保されていたわけです。

注2：明治時代の官営鉄道は、私鉄を吸収して国鉄となり、鉄道省の外郭である鉄道院により運営されていました。その運営形態に、GHQがメスを入れます。すなわち、100%政府出資の会社（公社）として経営することになります。しかし、実質はあまり変わらなかったため、国鉄という名前と呼ばれていました。その国鉄が、1987年（昭和62）に分割民営化され、JRグループになりました。

注3：十河信二（生没年：1884－1981年）は、鉄道省の官僚。戦後、国鉄総裁として新幹線の着工にこぎ着けるが、新幹線開通の約1年半前に、建設予算超過の責任を取られ、辞任となりました。

注4：島秀雄（生没年：1901－1998年）は、鉄道省技官として蒸気機関車「D51」の設計に従事。国鉄技師長は、十河辞任と同じときに辞任し、開通式には招待されなかった。その後、1969年（昭和44）から、宇宙開発事業団の初代理事長に就任。人工衛星に「ひまわり」の名前は、島の園芸趣味が影響しているといわれます。

注5：鉄道技術研究所は、国鉄の鉄道技術の研究機関で、日本の鉄道技術を世界一にした機関です。新幹線システムのほか、リニアモーターカーも開発しました。

注6：開発された特急電車は、小田急の路線が曲線の多く、速度性能を十分に発揮できないことから、国鉄の路線において走行試験をしたのです。小田急と国鉄は、試験データの共有を条件として協議が整いました。世界一をめざそうと、鉄道技術者たちが団結したのです。世界最高記録は、狭軌鉄道の世界のこと。つまり、世界の鉄路には、2本のレール間距離が長い「広軌」と短い「狭軌」の2種類があり、日本は狭軌で敷設していたからです。なお、新幹線は、広軌を採用しています。

注7：起工式は、弾丸列車計画で着手していた新丹那トンネルの熱海側入り口で行なわれました。これは、東海道本線の丹那トンネルが難工事であり、新幹線工事の帰趨を決める工事であったことによると推察します。トンネルは、4年4ヶ月の工期で完成させ、1964年（昭和39）のオリンピック開催に間に合いました。

写真は、①当時の新丹奈トンネル（弾丸列車計画の新丹那トンネル工事を再開、YouTube「記録映画 東海道新幹線」より）、②世界最高時速を出した小田急特急（YouTube「記録映画 東海道新幹線」より）、③「新幹線の発祥地・鴨宮」の碑（鴨宮駅前に建つ、HP「日本旅行」掲載写真）、④鴨宮駅の位置（Yahoo 地図に細見加筆）



